

4 半期調査

平成 28 年 7 月～9 月

■ 中小企業景況調査

平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日

1. 建設業

(1) 前年同期比（平成 27 年 7 月～9 月）

前年同期の景況と比較して、完成工事高、受注額ともに△44 ポイントとなっており、事業環境の厳しさがうかがえる。

また、材料仕入単価は「上昇した」が「低下した」を 22 ポイント上回っており、採算が悪化（△11 ポイント）、業況が悪化（△22 ポイント）したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

(2) 前期比（平成 28 年 4 月～6 月）

前期の景況と比較して、完成工事高は△13 ポイントとなっている。

前回調査の今期見通しでは、完成工事高は△33 ポイントと「減少」を想定する事業者が多かったが、結果的に 20 ポイント良化している。

(3) 今後の見通し（平成 28 年 10 月～12 月）

今後の景況に関しては、完成工事高は△56 ポイント、受注額は△33 ポイントとなっており、厳しい受注環境を想定している。

また、材料仕入単価に関しても「上昇する」が「低下する」を 22 ポイント上回っており、材料仕入単価の値上がりを想定する事業者の割合も多い。

採算は△33 ポイント、資金繰りは△38 ポイント、業況は△50 ポイントとあるように、今後の事業環境が「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

①仕事量減少。

②新築住宅が一番の商品となるが、大手ホームメーカーでは坪百万円で取引されているのに対し、展示会等でホームメーカーを回ってきたお客様が口を揃えて坪 40 万円くらいで金額提示してくるのが不思議。

【完成工事高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	22%	11%	67%	-44%
前期	25%	38%	38%	-13%
見通し	11%	22%	67%	-56%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	13%	38%	50%	-38%
前期	14%	57%	29%	-14%
見通し	0%	63%	38%	-38%

【受注額】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	22%	11%	67%	-44%
前期	-	-	-	-
見通し	11%	44%	44%	-33%

【材料仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	22%	78%	0%	22%
前期	-	-	-	-
見通し	22%	78%	0%	22%

【採算(経常利益)】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	11%	67%	22%	-11%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	67%	33%	-33%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	13%	88%	0%	13%
前期	-	-	-	-
見通し	13%	88%	0%	13%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	22%	33%	44%	-22%
前期	0%	50%	50%	-50%
見通し	0%	50%	50%	-50%

【従業員(含臨時・パート)】

	過剰	適正	不足
	1	5	2

2. 小売業

(1) 前年同期比(平成27年7月～9月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△27ポイントとなっている。客数と客単価を見ても客数、客単価ともに△18ポイントとなっており、客数の減少、客単価の低下を認識する事業者の割合が多い。

商品仕入単価は「低下した」が「上昇した」を9ポイント上回り、低価格帯の品揃えを指向する事業者の姿がうかがえる。

採算は△9ポイント、資金繰りは△9ポイント、業況は△27ポイントといずれも「悪化した」とする事業者の割合が多い結果となっている。

(2) 前期比(平成28年4月～6月)

前期の景況と比較して、売上高は△18ポイントとなっている。

前回調査の今期見通しでは、売上高は△36ポイントと「減少」を想定する事業者が多かったが、結果的には、18ポイント良化している。客数は「減少した」が「増加した」を18ポイント上回っており、客数が「減少した」とする事業者の割合が多い。

業況も「悪化した」が「好転した」を18ポイント上回っており、業況は「悪化した」と回答する事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し(平成28年10月～12月)

今後の景況に関しては、客数、客単価、売上ともに△18ポイントと厳しい売上環境を想定している。

また、資金繰りは△18ポイント、業況は△30ポイントとあるように、今後の事業環境は「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

- ① イベント出店により売上が増加した。
- ② 同業者の廃業により、客数が増える見込み。
- ③ 前年に比べると売上減。特に客単価低下に伴い状況が厳しい。粗利が大きく見込める商品を増加させる必要がある。
- ④ 人口減による需要の停滞。

【売上高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	36%	45%	-27%
前期	27%	27%	45%	-18%
見通し	18%	45%	36%	-18%

【客単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	9%	64%	27%	-18%
前期	9%	82%	9%	0%
見通し	0%	82%	18%	-18%

【客数】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	45%	36%	-18%
前期	18%	45%	36%	-18%
見通し	18%	45%	36%	-18%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	9%	73%	18%	-9%
前期	0%	91%	9%	-9%
見通し	0%	82%	18%	-18%

【商品仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	9%	73%	18%	-9%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	82%	18%	-18%

【商品仕入額】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	55%	27%	-9%
前期	-	-	-	-
見通し	9%	64%	27%	-18%

【商品在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	9%	82%	9%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	91%	9%	-9%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	18%	55%	27%	-9%
前期	-	-	-	-
見通し	20%	60%	20%	0%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	78%	22%	-22%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	78%	22%	-22%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	9%	55%	36%	-27%
前期	9%	64%	27%	-18%
見通し	0%	70%	30%	-30%

【従業員(含臨時・パート)】

過剰	適正	不足
1	8	2

3. 製造業

(1) 前年同期比(平成27年7月～9月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△56ポイントと「減少した」とする事業者の割

合が増加。売上数量は△67ポイント、設備操業率は△43%となっており、売上数量減が大きな要因と考えられる。

原材料仕入単価は、「上昇した」が「低下した」を25ポイント上回り、採算が悪化（△50ポイント）、資金繰りが悪化（△44ポイント）したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

業況に関しては、「悪化した」が「好転した」を29ポイント上回り、業況の悪化を示す結果となっている。

(2) 前期比（平成28年4月～6月）

前期の景況と比較して、売上高は△63ポイントとなっている。

前回調査における今期見通しでは、売上高は△33ポイントとなっており、見通しよりも30ポイント悪化している。売上数量は△50ポイント、売上単価△25ポイントとなっており、売上数量の減少、売上単価の低下が大きな要因と考えられる。

資金繰りは△38ポイント、業況は△43ポイントといずれも「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し（平成28年10月～12月）

今後の景況に関しては、売上高は△22ポイント、売上数量が△22ポイント、売上単価は△11ポイントと厳しい受注環境を想定している。

また、原材料仕入単価に関しても「上昇する」が「低下する」を25ポイント上回っており、原材料仕入単価の値上がりを想定する事業者の割合も多い。

採算は△38ポイント、資金繰りは△44ポイント、業況は△14ポイントとあるように、今後の事業環境が「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多い。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

①取引先の業況悪化がまだ回復しないので、売上が上がらない。今後もこの状況がしばらく続くと考え。同業他社の競込みも益々強力になってきており、売上単価の低下が見込まれる。

②受注の確保が大変である。

③お客様サイドで我慢していた設備投資が出てきた感がある。

【売上高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	44%	56%	-56%
前期	13%	13%	75%	-63%
見通し	22%	33%	44%	-22%

【売上単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	0%	78%	22%	-22%
前期	0%	75%	25%	-25%
見通し	11%	67%	22%	-11%

【売上数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	33%	67%	-67%
前期	13%	25%	63%	-50%
見通し	22%	33%	44%	-22%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	56%	44%	-44%
前期	0%	63%	38%	-38%
見通し	0%	56%	44%	-44%

【原材料仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	25%	75%	0%	25%
前期	-	-	-	-
見通し	25%	75%	0%	25%

【原材料在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	75%	25%	-25%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	75%	25%	-25%

【製品在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	75%	25%	-25%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	75%	25%	-25%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	50%	50%	-50%
前期	-	-	-	-
見通し	13%	38%	50%	-38%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	89%	11%	-11%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	100%	0%	0%

【設備操業率】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	0%	57%	43%	-43%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	57%	43%	-43%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	14%	43%	43%	-29%
前期	0%	57%	43%	-43%
見通し	14%	57%	29%	-14%

【従業員(含臨時・パート)】

過剰	適正	不足
0	9	0

4. サービス業

(1) 前年同期比(平成27年7月～9月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△63ポイント、利用客数は△56ポイント、客単価は△13ポイントであり、利用客数の減少、客単価の低下が売上高の減少要因と考えることができる。

仕入単価は、「上昇した」が「低下した」を29ポイント上回り、採算が悪化(△13ポイント)、資金繰りが悪化(△6ポイント)したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

業況に関しては、「好転した」を「悪化した」が33ポイント上回る結果となっており、業況が「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(2) 前期比(平成28年4月～6月)

前期の景況と比較して、売上高は△40ポイントとなっている。

前回調査における今期見通しでは△33ポイントとしており、7ポイント悪化している(今期結果で「減少した」とする事業者の割合が増えたため→「見通し:「減少する」47ポイント、今期結果:「減少した」60ポイント)。利用客数(見通し:△19ポイント→今

期結果：△40ポイント)、客単価(見通し：△6ポイント→今期結果：△19ポイント)ともに悪化している。

資金繰りは△13ポイント、業況は△25ポイントとあるように、資金繰り、業況ともに「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し(平成28年10月～12月)

今後の景況に関しては、売上高は△44ポイント、利用客数は△40ポイント、客単価は△19ポイントと厳しい売上環境を想定している。

仕入単価も「上昇する」が「低下する」を21ポイント上回っており、仕入単価の上昇を想定する事業者の割合も多い。

採算は△6ポイント、資金繰りは△13ポイントと悪化を見込む事業者が多いものの、業況に関しては、±0ポイント(「好転する：7ポイント」、「悪化する：7ポイント」となっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

①ターゲット層の需要が見込めない。

②単価の低下。

【売上】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	6%	25%	69%	-63%
前期	20%	20%	60%	-40%
見通し	13%	31%	56%	-44%

【利用客数】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	6%	31%	63%	-56%
前期	20%	20%	60%	-40%
見通し	13%	33%	53%	-40%

【仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	29%	71%	0%	29%
前期	-	-	-	-
見通し	21%	79%	0%	21%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	13%	80%	7%	7%
前期	-	-	-	-
見通し	7%	93%	0%	7%

【従業員(含臨時・パート)】

	過剰	適正	不足
	2	9	4

【客単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	0%	88%	13%	-13%
前期	0%	87%	13%	-13%
見通し	0%	81%	19%	-19%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	6%	81%	13%	-6%
前期	0%	87%	13%	-13%
見通し	0%	88%	13%	-13%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	6%	75%	19%	-13%
前期	-	-	-	-
見通し	13%	69%	19%	-6%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	67%	33%	-33%
前期	0%	75%	25%	-25%
見通し	7%	87%	7%	0%

5. 設備投資の状況

■建設業

平成28年7月～9月	今期	来期
実施していない(計画していない)	9	8
実施した(計画している)	0	1
<実施内容>		
土地	0	0
建物	0	0
建設機械	0	0
車両・運搬具	0	1
付帯施設	0	0
OA機器	0	1
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

■小売業

平成28年7月～9月	今期	来期
実施していない(計画していない)	11	8
実施した(計画している)	0	3
<実施内容>		
土地	0	0
店舗	0	2
販売設備	0	3
車両・運搬具	0	0
付帯施設	0	1
OA機器	0	0
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

■製造

平成28年7月～9月	今期	来期
実施していない(計画していない)	8	7
実施した(計画している)	1	2
<実施内容>		
土地	0	0
工場建物	0	0
生産設備	1	2
車両・運搬具	1	0
付帯施設	1	1
OA機器	0	0
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

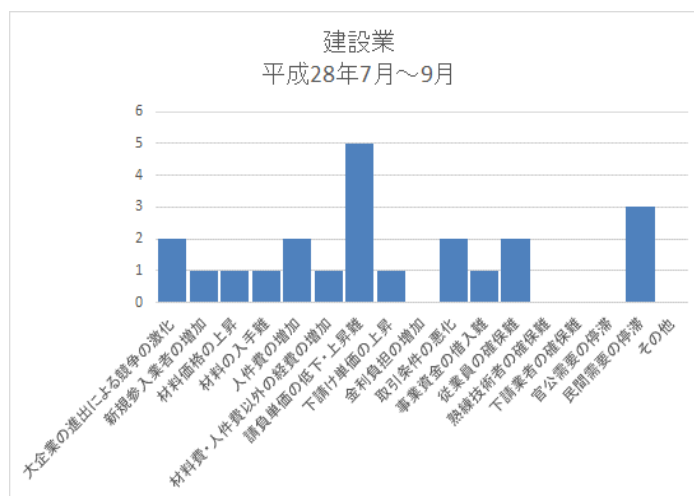
■サービス

平成28年7月～9月	今期	来期
実施していない(計画していない)	15	15
実施した(計画している)	1	1
<実施内容>		
土地	1	0
建物	0	0
サービス設備	0	0
車両・運搬具	0	1
付帯施設	0	0
OA機器	0	0
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

6. 経営上の問題点

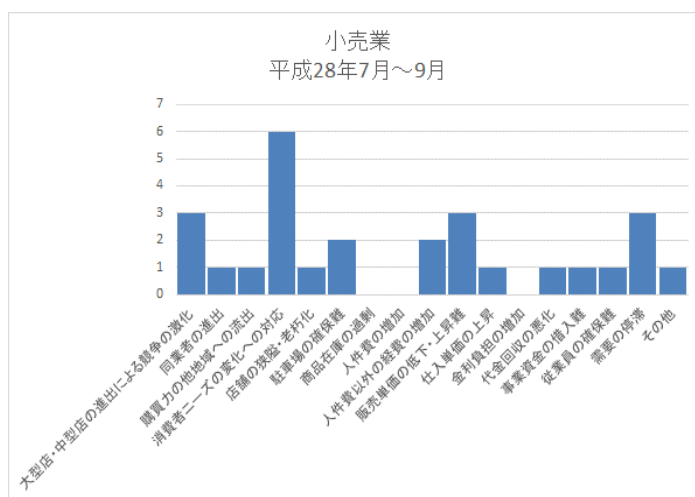
(1) 建設業

「請負単価の低下、上昇難」、「民間需要の停滞」を問題として挙げる事業者が多い。発注企業からのコスト引下げ要求の高まりや、そもそもの発注量の減少が考えられる。



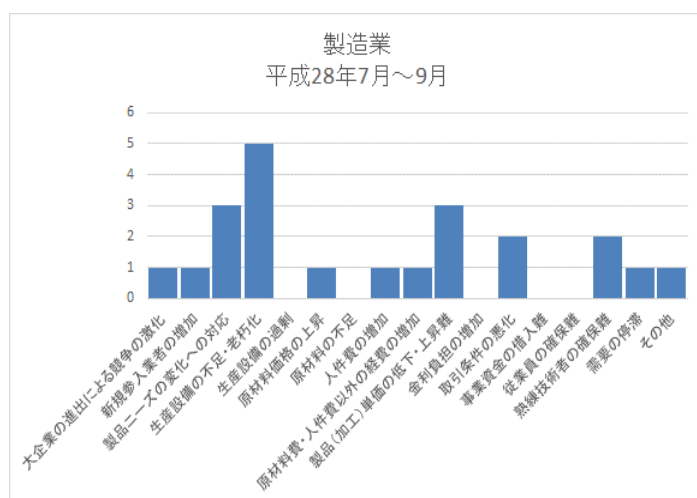
(2) 小売業

「消費者ニーズの変化への対応」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「販売単価の低下・上昇難」、「需要の停滞」を問題として挙げる事業者が多い。客数・客単価ともに減少・低下傾向を背景に、消費者ニーズの把握の難しさを表している。その上、競合の進出にも脅威を感じていることがうかがわれる。



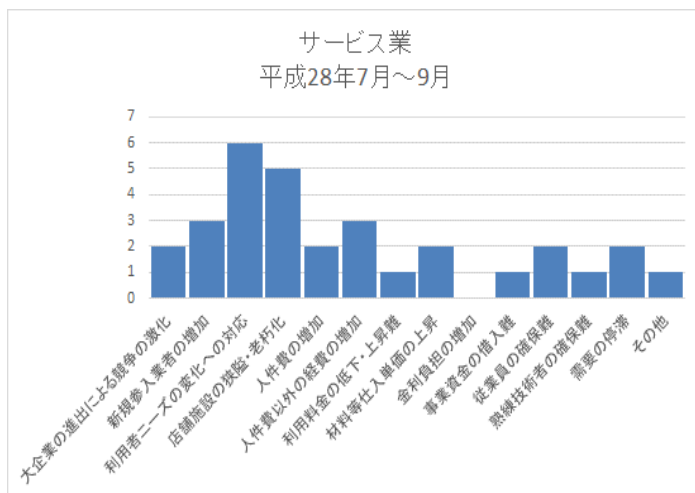
(3) 製造業

「生産設備の不足・老朽化」、「製品ニーズの変化への対応」、「製品（加工）単価の低下・上昇難」を問題として挙げる事業者が多い。製品ニーズの変化に対応するためには、設備が必要だが、先行きの不透明感により投資に踏み切れない、もしくは資金的に捻出できない状況が考えられる。また、売上数量が減少するなか、受注確保のために、コストダウン要求に応じざるをえない状況が考えられる。



(4) サービス業

「利用者ニーズの変化への対応」、「店舗設備の狭隘・老朽化」を問題として挙げている事業者が多い。ニーズ対応のためには設備更新が必要と認識しながらも、先行需要の不透明感などにより、手を付けられない現状があると考えられる。



以上